

第 2 回賀茂幼児園閉園説明会について

日時：令和 8 年 8 月 4 日（火） 場所：賀茂幼児園 遊戯室

出席者：賀茂幼児園保護者 11 名、ふるさと創造会議 1 名、市議会議員 3 名、副代表区長 1 名、
教育委員 1 名、教育委員会事務局 部長以下 4 名、園職員 5 名

1. 市からの提案とサポート体制について

前回の説明会において、「令和 10 年 3 月閉園」という検討案が一方的な決定事項のように伝わり、保護者に大きな不安と不信感を与えたことについて、お詫びしました。これらを踏まえ、今回の説明会において、市から以下の新たな方向性と具体的な支援策を提案しました。

（１）閉園時期の 1 年延期案（令和 11 年 3 月閉園）

現在在園している 3 歳児の園児が、年長となる 5 歳児の年齢で別の園へ転園することなく、過ごし慣れた賀茂幼児園でそのまま卒園を迎えられるよう、閉園を「令和 11 年 3 月」とする新たな案を提示しました。

（２）転園サポートおよび経済的支援プラン

環境の変化に伴う園児や保護者の負担を最小限に抑えるため、以下の具体的な支援策を説明しました。

- **園児への心のケア**：転園が必要となる理由を、園児の発達段階に合わせて紙芝居などを用いながら丁寧に説明します。また、これまでの成長記録や個性を転園先の園と確実に共有し、公立園を希望する場合は現在の保育教諭が転園先へ異動することとします。
- **段階的な移行支援**：転園前に親子で転園先の見学や体験ができる機会を設け、入園後の慣らし保育のスケジュールも柔軟に調整します。転園後に心配事や変化が見られた場合は、行政と専門職によるサポートチームが継続してフォローします。
- **経済的・物理的支援**：体験入園時の一時預かり利用料の全額負担、希望園の入所枠の優先確保、転園先の入園に関する情報の提示や必要となる制服や指定用具の貸与、遠距離通園になる場合の延長保育料の支援を行います。これらの対応は、令和 9 年 4 月から令和 11 年 3 月までの期間で 1 回限りとします。
- **合意形成の明文化**：保護者からの要望に基づき、提示したサポート内容を今後変更する場合には、決定前に対象となる保護者の同意を得て行うことを約束しました。なお、制服のサイズアウト時の対応については、後日協議した上で回答します。

2. 当初の約束（13 年 3 月閉園）について

保護者からは、令和 6 年に行われた保護者会での議事録に基づき、意見が出されました。市が「幼児園の閉園については一方的にならないよう保護者に説明し、理解を得た上で進める。園生活や保護者の環境を急変させないために段階的に受け入れを停止し、令和 13 年 3 月末をもって閉園する」と約束していた事実について、指摘がありました。

保護者からは、当初の計画通り令和 13 年 3 月まで園を継続することを求められました。

3. 閉園時期の前倒し理由（園児減少）をめぐる議論について

市が閉園時期を前倒しする理由として挙げた「園児数の減少」という説明に対し、保護者との間でやり取りが行われました。

- 「卒園による減少は予測通り」とする指摘：保護者からは、「園児が順次卒園していけば、全体数が減っていくのは最初から分かっていたことであり、市自身が作成した推移予測データの通りに動いている。急に減ったわけではないのに、それを理由に閉園を早めるのは説明がつかない」という整合性への指摘がありました。これに対し、市は4月に確定した実際の人数を見て判断したと説明しました。
- 事前発信による影響について：正式な決定に至る前の段階で、新聞報道や SNS を通じて「閉園予定」と発信したことに対し、保護者から園児減少をさらに加速させている要因として反省すべき点の指摘がありました。

4. 保護者それぞれの家庭環境や、地域住民の思い

賀茂幼児園に対する思いや直面している状況について、保護者や地域住民からそれぞれの切実な立場から声がありました。

- 保護者からの切実な声：保護者からは、子どもたちがこの園をととても気に入っていること、そして「別の園への転園」と「小学校への入学」という2つの大きな環境変化が短い期間に重なることへの不安が語られました。また、保護者からは、いま元気に生きている子どもたちには、自分が一番安心できて、自分らしく過ごせる大好きな居場所を急に奪わないでほしいと、少人数で手厚く見守られる教育環境の価値が訴えられました。
- 転園をすでに決意した保護者からの意見：一方で、他の保護者からは、将来的な集団生活への適応を考慮し、すでに別の園への転園を心に決めていることが示されました。その上で、「市の保育無償化などの支援には日頃から生活面でとても感謝している。お互いに対立して攻撃し合うのではなく、子どもに負担がかからないよう良い形で話し合いを勧めたい。ただ、上の学年の子どもたちだけでも、最後までここで卒園させてあげてほしい」という、意見もありました。
- 地域社会とのつながり：地域の代表からは、地域の活動（ふるさと創造会議）を通じて、園児たちと一緒に野菜を育ててきた多世代交流の実績が紹介されました。不登校傾向にあった児童が「地域活動（バケツ稲）があるから」と登校できるようになった事例を挙げ、「おっちゃん」と慕って足元に寄ってくるような温かいふれあいは、少人数の園と地域が一体となって初めて実現できる教育の形であると、園が地域において果たす存続の意義が語られました。

5. 今後の対応とスケジュールについて

今回の説明会においては、「令和13年3月まで継続することを求める意見」と、「新たな提案である令和11年3月までの延期を受け入れる意見」の2つが主な議論の軸となりました。

市は、今回の説明会での意見を教育委員会に報告し、定例教育委員会において協議をした上で最終的な決定を行い、次回の説明会にて皆様に伝えます。

次回説明会日時：令和8年9月2日（水）16:00～ 場所：賀茂幼児園遊戯室